

千葉県議会議員

ふくたに しょうこ

福谷章子の

街づくり通信



2011年2月号

編集・発行：福谷章子

無所属

福谷章子の日記(ブログ)：<http://fukutani.blog.ocn.ne.jp/blog/>

ツイッター：<http://twitter.com/shoukosan>

メールアドレス：fukutani2903@gmail.com

千葉県緑区おゆみ野 3-40-8 河野ビル 213 TEL&FAX:043-312-2903

緑区の交通の課題

緑区内には、JR 外房線と京成線という鉄軌道が通っています。しかし、外房線は混雑が激しく、京成線は料金が高額でバリアフリー化(エレベーターが設置されていない)が遅れているという欠点があります。しかも、菅田以東の大量輸送は外房線のみです。東西に長い緑区は、バスによる移動を保障することが求められますが、駅と駅とをつなぐ基幹的なバスは道路事情によって定時性に課題があります。千葉市が政策として持っているコミュニティバスは、利用者の伸びが今一つ。路線や料金の決定に、住民や利用者の参加が無いことも乗客が増えない一因ではないでしょうか。さらに住民(利用者)と事業者と行政とが協議できる場を地域ごとに設けて、身近な交通体系を考える制度が必要だと考えます。

公共交通のパラダイム転換を()

千葉市には、「千葉市総合交通ビジョン」という市の交通政策に関する指針があります。このビジョンでは、モノレールを青葉病院まで延伸し、そこまでの基幹バスが集結するというイメージを軸に全体が構成されています。

ところが、県庁前駅から青葉病院までのモノレール延伸計画が凍結となったことで、このビジョンも見直しが必要となりました。それでなくとも、社会経済状況の変化から千葉市の公共交通のあり方そのものを考え直す必要に迫られています。人口減少、少子高齢化、規制緩和による変革によって、公共交通そのものへの考え方の転換が必要ではないでしょうか。

パラダイム転換：これまでの考え方やシステムを見直し、新しい時代に対応した考え方、システムを構築すること。

総合交通政策会議では

千葉市総合交通ビジョンを再検討するために、2カ年にわたって開催される総合交通政策会議が行われています。委員はモノレール会社、千葉県バス協会の事業者2名と、4名の大学の先生などの有識者計6名です。今年度は、委員のみなさんそれぞれが専門的な立場から千葉市の交通政策についての考えを披露するプレゼンテーションを行い、その後委員相互で意見交換をしています。それを受けて次年度（23年度）は、助言・提言に向けて具体的な検証をしながら、千葉市の総合的な交通体系について整理していきます。

黒字か赤字か？の議論から脱却を！

従来の公共交通の議論においては、赤字路線は罪悪のように言われてきました。しかし、必要だけれども採算性が無くて民間事業者ができないところを担うのが、公共の仕事です。したがって、生活の足を確保するために公費を投入することも認めていくべきだと考えます。特に、交通不便地域、高齢者や運転免許を取得できない世代、子ども連れや要介護者連れなどには配慮が必要です。

バス事業の見直しを！

地域事情に応じたコミュニティバスや、駅と駅とを結ぶ基幹バス、公共施設やショッピングセンターや病院など街中を巡回する生活バスなど、バス事業には新たな提案が必要です。また、運行経費の一部を支えるための基金づくりなど、バス事業に特化した取り組みが求められます。

交通不便地域の再定義を！

現在、千葉市では交通不便地域を鉄道駅から1km圏外かつバス停から300メートルと定めています。しかし、超高齢社会になるとよりドアツードアのサービスが必要です。そこで、交通不便地域の見直しを求めていきます。

自転車利用も安全に！

昨年、千葉市は自転車走行環境マップ調査を行いました。これは今後、自転車の安全な利用を促進するために既存の道路状況を市民の感覚で調査し、今後の道路改良の資料とするもので、23年度も行われる予定です。自転車事故が増える中、自転車対策も課題満載。自転車の課題は次号で取り上げます。